

特発性血小板減少性紫斑病・再生不良性貧血

日時：平成23年6月11日（水）13:30~16:30

場所：サンシップとやま 704号室

内容：講演—**血液疾患**の最新医療について—

富山大学医学附属病院第三内科 診療講師 村上 純氏

療養相談会

参加者：総数60名（患者44名 家族16名）



	特発性血小板減少性紫斑病	再生不良性貧血
どんな病気	何らかの理由で脾臓の血小板が破壊され、血小板の止血機能が低下し出血しやすくなる自己免疫疾患	血液中の白血球、赤血球、血小板のすべての血球が減少する。血球は骨髄で作られるが、この病気では骨髄組織は多くの場合脂肪に置き換わり、血球が作られていないため、貧血、感染、出血が起きる
症状は	皮膚の紫斑・点状出血 鼻・口腔・性器・頭蓋内・消化管出血	貧血症状：動悸・息切れ・めまい・頭痛・疲労感 出血傾向：点状出血・歯肉出血・鼻出血 感染：発熱
治療は	急性期：6ヶ月以内の自然寛解が多く、軽度の出血で経過観察、出血傾向の強い場合ステロイド治療短期投与 慢性期：治療対象は血小板2~3万	貧血：赤血球濃厚液または白血球除去赤血球輸血 出血傾向：濃厚血小板輸血 発熱：38℃以上の発熱で抗生剤投与、加熱食で生物禁忌 重症：骨髄移植 免疫抑制療法、ステロイド療法
注意は	傷を作らない	貧血症状、出血傾向に注意 口腔・肛門周囲の清潔、発熱時は迅速に対処

—相談内容抜粋—

☆ 特発性血小板減少性紫斑病

歯磨きの出血⇒歯の局所的な問題で、歯周囲炎も考えられる。貧血があれば治療が必要

ピロリ菌除菌の必要性⇒ピロリ菌除菌は胃癌の予防効果もある。特に若い人の場合に癌の発症が低くなる

運動の注意点⇒血小板数や年齢により違うが禁止の必要はない。

脾臓の摘出効果 **白内障手術** **癌家系で胆石もあり手術になった場合** **輸血**

⇒若く、発症初期であれば脾臓摘出は効果があるが治療経過の長い人には効果が少ない

白内障手術は出血量が少ないので可能 胆石手術は脾臓摘出と同時に行なうこともある

輸血対象：血小板5万以下で、出血症状あれば血小板3万以下で、脳の手術時は血小板8万以下で輸血



☆ 再生不良性貧血

食事の注意点⇒白血球の減少程度が問題であるが感染予防に留意（感染予防ガイドラインに詳細明記）

運動量⇒貧血の程度が影響するので主治医に相談

ステロイドの中止⇒危険性と有益性のバランスを考えると、飲まないより飲んだほうのメリットが高い
また、一旦中止すると受診しなくなる可能性も予測され、再発などの心配がある

日常生活の注意点⇒柔らかい靴を履き、締め付けない衣服の着用をこころがけ、ソフトな物を身につける